



就農を予定している受講生たち。熱心に話を聞く

山形支店 「事例から学ぶ農業経営の始め方」テーマに登壇

山形県立農林大学校では、県内の新規就農希望者を対象に、実践技術と知識習得を支援する「新規就農支援研修」を毎年開催しています。

山形支店では、農業経営のイメージを持ってもらうことを目的に、新規就農事例や公庫の「融資先フオーアアップ調査結果」に基づく経営上のリスクなどについて講演。参加者からは「6次産業化に取り組みやすい業種と取り組みにくい業種があることがわかった」などの感想がありました。

6月3日、於：新庄市、参加者：山形県立農林大学校研修生他46人



試食提供には蓋付きの容器が使用されました

盛岡支店 岩手の「食」をPR いって食の大商談会

岩手県、地元金融機関などとの共催により、岩手県の食材を広くPRすることを目的に「いって食の大商談会」を毎年開催しています。今回は農業者や食品加工業者を中心に91社が出展しました。

当日は全国各地から300人を超えるバイヤーが来場。会場内では、新型コロナウイルス感染症の感染防止措置を講じたうえで、試食の提供がおこなわれました。

出展者からは、「オンラインでの商談会が多いが、対面型の商談会は貴重な機会」などの感想が寄せられました。

6月7日、於：盛岡市、出展者：91社

農業経営・技術情報を提供しています

試験研究機関などの研究成果や現場で役立つ実用化技術のポイントなど最新技術の情報をホームページ上で毎月提供しています。また、メール配信サービスでは、更新情報をお知らせしています。ぜひ、ご登録ください。

「最新技術情報」は、ホームページへアクセスし、

- 1 「サービスのご案内」をクリック
- 2 「最新技術情報」をクリック
- 3 経営部門別の「農業経営・技術情報」の下の各テーマをクリックしてご覧ください



こちらからもご覧いただけます



メール配信サービスへのご登録はこちらから



バックナンバー

- No.2503 糞便の多検体処理による効率的なヨーネ病スクリーニング遺伝子検査法
- No.2504 日本ナシ「加賀しずく」における主枝先端新梢の伸長法

- No.2505 遺伝子組換えカイコによる超極細シルクについて
- No.2506 高温・高CO₂複合影響を考慮した水稻生産予測

など

災害のお見舞い

大雨による災害で被害を受けた皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

昨今の大雨による被害を受けられた農林漁業者などの皆さまの、ご融資やご返済に関する相談を受け付けています。本店農林水産事業本部（フリーダイヤル：0120-926478）および全国の各支店農林水産事業にお問い合わせください。

◆昨年、熊本豪雨で被災しました。翌日、友人、親戚などが駆け付けてくれ、家の周りの土砂の片付けなどを手伝ってくれました。人のご縁のありがたさを感じました。

その時、こんなことがありました。玄関近くに立てかけていたコンパネに、どうやって来たのか、セミの幼虫が脱皮していました。動物たちにとっては災害も自然界の出来事であり、次の世代に命をつなぐために必死なのだと思います。

また、片付け中、新聞の切り抜きが出てきました。浜松医大におられた大原健士郎先生が書かれた『人生にはいくら努力してもどうにもならない場合がある』で始まるその記事を読み返し、「あるがまま」を受

け入れ、前に進むしかないな、と感じました。

（熊本県芦北町 白石博文）

◆私は俳句は下手だが、心情の発露や季節の移ろいを五・七・五のたった17文字の短い詩に凝縮して表現した俳句は大好きだ。7月号の太高原氏の「寝がへりて昼寝深みにとどまりぬ」も素晴らしい。私はこの句で少年時代の夏休みを思い出した。

午前の涼しい時に近所の子どもたちと三角ベースに打ち込み、夏休みの解放感で遊びに遊びまくって、昼に自宅へ帰って昼食をとった。

後は畳の上でゴロ寝をしてそのまま寝入った。祖母から「食後の昼寝は牛になるよ」と脅かされたことも懐かしい。

（広島市 内 惺）

編集後記

◆フードテックを特集しました。培養肉や昆虫食をイメージしていましたが、実際には想像以上に幅が広く、興味深く読んでいただけると幸いです。4・5月合併号で食料システムを特集し、編集後記に持続ある食料の確保のためには一人一人の行動を見直す必要があると書きました。フードテックもその実現に貢献できるものであってほしいと思います。

（平野）

◆「変革は人により」取材先は大分県でバジルなどを加工されている企業です。ジェノベーゼパスタが好きでよく食べているのですが、手塩にかけて育てられ丁寧に加工されたバジルをいただいていると思うとおいしさも格別でした。今度からは生鮮品だけでなく食品加工品も、生産者・加工者の方への感謝の気持ちを胸にいただきます。

（大谷）

◆今月号は驚くことばかり。2020年を「フードテック元年」と表現した雑誌を見かけたことがあり最近の流行と思っていたフードテックですが、瀬川さんの記事で、想像を超える奥深さであることを知りました。また有機農業は牧歌的イメージがあったので、新農人・伏田さんの論理的かつ戦略的な経営にはびっくりでした。表紙帯は藍色です。

（城間）

◆ツイッターに気象データを組み合わせた消費行動の分析や、AIによるパーソナライズされた献立提案、食品とデジタルデータ、個人情報と掛け合わせた驚くべき新技術が、食の日常に浸透しつつあります。食材を買って料理し食べるといういつの時代も変わらぬ行動に、便利さと社会の課題解決が加わる未知の世界。今後の展開にワクワクします。

（竹中）

AFCフォーラム 2021.9

- 編集

前田 美幸	平野 伸介	高雄 和彦
山本 晶子	大谷 香織	城間 綾子
竹中 夕美		
- 編集協力

青木 宏高	村田 泰夫
-------	-------
- 発行

株式会社日本政策金融公庫
農林水産事業本部
〒100-0004
東京都千代田区大手町1-9-4
大手町フィナンシャルシティ ノースタワー
Tel. 03(3270)2268
Fax. 03(3270)2350
E-mail anjoho@jfc.go.jp
ホームページ <https://www.jfc.go.jp/>
- 印刷 佐伯印刷株式会社

ご意見をお寄せください

本誌への感想やご意見などを、メールやFAXなどでお寄せください。掲載させていただいた方には薄謝を呈呈します。

こちらからもどうぞ→



【送付先】
メール: anjoho@jfc.go.jp
FAX: 03(3270)2350